

学校名	静岡県沼津市立静浦小中一貫学校
授業者	角田真理子

## 1. 単元計画

### 1-1. 単元名

静浦の漁業を未来へ

### 1-2. 学年

5

### 1-3. 教科

総合

### 1-4. 単元の概要

「課題の設定」では、まず静浦漁港について知っていることと知らないこと・知りたいことを整理することから始めた。子どもたちは、社会科などの学習を通して、静浦の漁法について漠然と知識をもっている。しかし、漁師の数が減ってきている現状や静浦の水産業が抱える課題を知り、探究したい問いを考えていく。

次にその問いを解決するために、どうする方法で「情報の収集」をすればよいのかについて、今までの学習で使ってきた3つの収集方法（インタビュー・アンケート、本・インターネット、フィールドワーク）を想起し、どの方法が適切なのかについて考える。そして、本やインターネット、また漁港へ行くだけでは情報が得られないため、漁師さんにインタビューすることが適切だと知り、インタビューで情報を集める。

「整理・分析」では、情報収集後、記録用紙に集めた情報を付箋に書き出し、観点をいくつか決め、伝える相手にとってより分かりやすいものにしようと、情報の共通点や相違点を見出し、分類して整理する。ここでは、集めた情報を関連付けてまとめる「コンセプトマップ」という手法を使うことで、情報がどう繋がっていくのかを可視化できるようにする。

「まとめ」では、様々な情報を整理した子どもたちが、「伝えたい相手（漁師さん）」にとって、自分の主張が分かりやすくなっているかどうか、友だちと対話的に話し合うことで、より説得力のある内容にしていく。対話の中では、「情報の取捨選択」「共通の情報をまとめる」「伝えたいことを筋道立てて並べ替える」という視点をはっきりさせて、聞き手が納得する情報になっているかどうか、練り合っていく。そのことで、相手に対して伝える内容が分かりやすく、より明確になり、伝えたい内容へと再構築していく。

最後に「表現」では、まとめた情報をプレゼンテーション形式で発信する準備をしていく。プレゼンテーションでのまとめは、3年生から行なっているが、今回は下級生である4年生に向けて発信する。そこで、聞き手にとって興味をもてる内容なのだろうかという相手意識をもち、グラフや写真なども入れるようにする。また、伝える時には、静浦に住む自分たちが、地元の産業である静浦漁港のためにできることは何か、静浦が今後も海とともに成長していくためには、どうしたらいいかというところまで広げて表現できることを期待している。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

子供たちは、地元の静浦漁港で働く「漁師さん」の仕事を漠然と魚を捕っているとは知っているが、どのような現状であり、どのような将来の展望があるのかについては知らないことが多い。そこで、「静浦の水産業」という視点で静浦漁港を捉え、静浦漁港の過去、現在、未来の様子を知ること、静浦漁港の将来について考えさせていきたい。

総合的な学習では、3年生から静浦漁港を中心に「ひもの」、「静浦漁港から沼津港」というテーマで学習してきたが、一番大切にしてきたのは、子供が主体的に学ぶ姿である。そのためには、単元の導入で、今まで知っていた知識と新しく提示した資料を基に、本当に解決したい問いを考えさせる。ここでは、「水産業の盛んな地域」で日本の水産業のことを学んだ内容を想起させ、「では、静浦の漁業はどうなっているのだろうか」と投げかけて単元を貫く問いをみつけてスタートしたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、静浦の特徴や良さに気付く。
- ・「静浦の漁業」に関する事柄から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。
- ・「静浦の漁業」についての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、社会に参画しようとする態度を育てる。

1-7. 単元の展開（全20時間）

時数	学習活動・主な内容	○教師の指導 / ☆ 主な評価 ・外部連携 / 使用教材等
1 ～ 4	<b>第1次</b> ○静浦の漁業について知りたいことを整理しよう。(単元の見通しをもつ) ○課題解決のための方法を探ろう。	○社会科や4年の総合学習を想起させ、静浦の漁業について興味をもたせる。 ☆解決したい問いを考え、解決のためにはどのような情報を集めたらよいのか考えようとしている。
5 ～ 10	<b>第2次</b> ○聞いた話から、解決したい問いごとにグループを作り、集めた情報を整理する。 ○整理した情報を関連づけて、問いに対する答えを見いだそう。	○聞いた情報を「なぜなにシート」の利用し、どうすればピラミッドチャートにまとめられるか考えさせる。 ☆整理した情報を関連づけて、問いに対する答えを見いだそうとしている。
11 ～ 12	<b>第3次</b> ○漁師さんの話を聞いて現状と課題を知ろう。 ○漁師さんの話を聞いて、昔の様子を知ろう。 ○漁師さんの話を聞いて、これからの静浦の漁業について知ろう。	○静浦の漁業について、漁師さんから話を聞く。(インタビューカードの利用) ☆聞いた情報について、自分なりにまとめようとしている。(メモ)
13 ～ 18	<b>第4次</b> ○この学習を通して、分ったことを4年生に伝えるために、パワーポイントを使ってプレゼンにまとめよう。	○パワーポイントで作成する構成を想起させる。 ☆社会の水産業で学んだことや漁師さんの話から、静浦漁港について、相手意識をもって伝えようとしている。

19 ・ 20	<b>第5次</b> ○4年生に向けて発表しよう。	○静浦漁港はどのような漁港であるか、スライドを見せながら発表する。 ☆自分自身が調べ、まとめた内容を、相手の反応を見ながら伝えようとしている。
---------------	------------------------------	--

## 2. 学習活動の実際

### 2-1. 単元における位置づけ

単元 20 時間中の 3 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

A：静浦は海の近くで、漁港もあることから、漁業に関係した産業が行われている地域であると思っている。

- ・社会の学習を振り返りながら漁の種類や漁法を想起し、自分の知っている静浦漁港の様子に目を向ける。
- ・静浦漁港での漁師数や漁業別漁師数の経年変化グラフを見て、考えたことを話し合う。

A'：静浦の漁業の現状を捉え直すとともに、自分自身のテーマを明確にし、さらに詳しく知りたいと意欲をもつ。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	* 教師の指導・支援 / ☆ 評価の視点 (方法)
<p>○日本の漁業について知っていることはどんなことかな？</p> <p>大きな船で遠洋漁業をしているよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作り育てる漁業とって、養殖や栽培漁業というものもあったぞ。ホタテの養殖をしていたぞ。</li> <li>・全国的に漁師さんの数が減っている問題もあるぞ。</li> </ul> <p>○近くにある静浦漁港は？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒラメの放流をしてるぞ。</li> <li>・ワカメを育てているらしいよ。</li> <li>・近くにあるけど、あまりよく知らないぞ。</li> </ul> <p>◎静浦の漁業について、もっと知りたいことは何だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静浦では、ヒラメの他に養殖している魚はいるのかな。</li> <li>・静浦ではどんな魚が捕れるんだろう。</li> <li>・静浦の漁師さんたちは、普段どんな生活をして、どのように仕事をしているのだろう。</li> <li>・4年生の時に調べた沼津港とは何が違うのかな。</li> </ul> <p>○みんなの問いを整理して、これからの学習の見通しを立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静浦漁港の特徴は何だろうか。</li> <li>・昔と今の漁港や漁獲量の違いはどうなっているんだろう。</li> <li>・静浦漁港で働く漁師さんについて、実際にインタビューをして聞いてみたい。</li> </ul>	<p>* 今まで学習したことを想起できるよう、問い返しをしながら、漁業について知っていることを引き出す。</p> <p>* 子どもの発言をキーワードで板書する。</p> <p>* KWL シートの K に、知っていることを記入する。</p> <p>* KWL シートの W に記入する。</p> <p>* KWL シートに書かれた内容から、一番調べたい事を短冊に書いて黒板に貼っていく。</p> <p>* 問いが見つけれない子には、5W1Hをキーワードにし、問いを見つけていくように助言する。</p> <p>☆今の静浦の漁業の現状を捉え直すとともに、さらに詳しく知りたいと意欲をもつ。(ワークシート・振り返り)</p>

### 3. 今回の活動の自己評価

課題設定の時間であるため、もっと時間をかけてあげた方が良かったと思う。思考ツールであるKWLシートを使うことに縛られ、シートを使う必要性や出すタイミングが子ども達のニーズに合っていなかったように思う。様々な情報を手に入れた子ども達が、もっとたくさんの意見を出し合い交流することで、すでに知っている情報と、後で与える資料からの情報を子ども達の頭に落とし込み、子ども達の思考にずれを作ることで、調べてみたいという意欲を持たせられたのではないかと考える。

学習問題を子ども達から出させる、教師側の的確な発問をもっともっと勉強していきたいと感じた。

### 4. 今後の課題

4年生の総合で扱う内容、5年生の社会科で学習する内容をきちんと把握し、子ども達の思考の流れを考えた単元計画が必要となってくる。学年の縦のつながりを意識し、総合で扱う内容を精選し、順序の入れ替え等を行っていく必要がある。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

社会科で学習したことを生かし、身近な産業について学習していくのだが、ただの地域学習、知識学習ではなく、そこに携わる人々の思いや、願いを子ども達を感じられる学習にしていきたい。例えば、地域の漁港で水揚げされる魚や漁法を知ることや、ワカメの養殖の体験をすることだけにとらわれるのではなく、漁師さんたちの過去から引き継いできた漁師町としての誇りや、これからを担っていく子ども達への期待を伝えていく授業にしていきたい。